

その308

クローズアップ21

メンバーシップ重視を貫く

平川カントリークラブ

バミューダ転換と環境改善でハイエンドを目指す

平川カントリークラブ（18H、千葉市緑区）は、千葉県北西部に位置するメンバーシップコースである。２０２５年度の年間来場者数は約４万人、会員数は約１６５０人、メンバーの平均年齢は62歳、女性来場者比率は13％。来場者の居住地は首都圏が中心で、千葉県が４割、東京都・神奈川県が各２・５割、その他が１割を占めている。

同クラブでは会員の同伴・紹介を原則とし、メンバーシップ重視の理念からポータルサイト等のＷＥＢオープン集客や近隣施設でのチラシ配布といった大々的な一般集客は行わず、電話予約を軸とした運営を堅持している。また、各ゴルフ連盟や競技団体と連携した競技会も盛んで、年間約30競技を実施している。

今回、同クラブの椎名英輝常務取締役支配人に、バミューダグリーンへの転換経緯をはじめ、２０２６年８月中旬の豪雨被災と復旧、コース改修、キャディ雇用をはじめとする職場環境改善の取り組みについて話を聞いた。



椎名英輝常務取締役支配人

昨夏にBグリーンをチャンピオンドワーフへ転換、夏場も10フィート超を維持

同クラブでは、２０２５年８月にBグリーンをバミューダ芝（品種：チャンピオンドワーフ）へと転換した。

従来の２ベントグリーン体制では、近年の記録的な猛暑により特定ホールの芝が衰退し、片側のグリーンのみで18ホールを統一運用することが困難な状況に陥っていた。夏場を乗り切るための刈り高調整によってグリーンスピードが９フィートに届かない程度まで低下し、良好なパッティングクオリティを提供


昨年8月にバミューダグリーンへ転換

できない点が長年の経営課題となっていた。そこで、先行してバミューダ芝を導入していた埼玉県等のコースを視察（オーナー、支配人、グリーンキーパーらが同行）。更新作業直後の8～9月でも10フィート近い転がりを維持している点を確認し、導入を決断した。

2025年4月に薬液散布（除草処理）を開始し、6月に播種・施工、わずか2カ月後の8月には供用開始という迅速なターフマネジメントを実現した。

転換後の評価は極めて高い。2026年5月に開催された「関東クラブ対抗予選競技」では初の競技使用となったが、バミューダ芝特有の硬さやスピードの出しにくさに対し、成長抑制剤の塗布、朝夕のダブルカット、ローラー転圧を組み合わせることで11・4フィートまで仕上げた。夏場も10フィート前後を目標値として安定管理できており、会員やゲストから高い評価を獲得している。

8月の局地豪雨被害、落雷207回と冠水から迅速に復旧

2026年8月13日から14日にかけて発生した千葉豪雨では、同クラブも甚大な被害に見舞われた。コース内の広範囲な冠水に加え、クラブハウスの浸水やロッカールーム天井の一部崩落、通信回線の寸断が発生。15番ホールの売店は床上約160㎝まで浸水し、什器やパソコン類が使用不能となった。民間気象会社の調査によると、線状降水帯発生時にクラブハウス周辺200m以内で207回の落雷を記録。4番・6番・10番グリーンや5番・11番ティーなどの散水電磁弁が全損し、配電盤関係も被害を受けた。営業損失を含めた被害総額は約4000万円にのぼる。


千葉豪雨被害時のロッカールーム


修復後のロッカールーム

被災直後から迅速な復旧作業を進め、8月18日には営業を再開。浴室床やロッカールーム天井の修繕を終え、FAX通信も仮復旧させた。15番売店についても10月の営業再開を予定している。

戦略性と安全性を高めるコース改修、練習場環境も刷新

コース改修においては、2026年2月に16番ホール左側の林帯を伐採し、5月には同ホール左セカンド地点にポットバンカーを新設した。バミューダ芝の生育に必要な日照条件を確保するため、Bグリーン周辺の樹木伐採も並行して進めている。

また、2025年7月には9番ホールのティーイングエリアの大規模な盤下げ工事を実施し


16番ホールポットバンカーの造成工事

隣接する8番ショートホールのティーイングエリアへの打ち込み事故を防ぐため、視界を遮っていた8番ティー裏の樹木を伐採した経緯がある。しかし、その直後に9番Bグリーンが露出したことで、右方向へのミスショットが打ち込まれるリスクが生じていた。そこでレギュラーティーの盤を下げ、アライメントをやや左方向へ振ることで、安全性を確保した。

さらに、2026年夏には数百万円を投じて練習場着弾エリアのマット塗装を刷新。ボールへの塗料・汚れ付着を防ぐとともに、新設マットの汚損を防ぐため、8月末には練習球全球を新品に入れ替えた。なお、今冬にはAグリーン（ベント）周辺の林帯整備を予定している。


9番ホールティーイングエリアの盤下げ工事

た。従来はレギュラーティーとフロントティーで段差があったが、レギュラー側の盤をフロントティーの高さまで切り下げた。


平川CCのゴルフ練習場


新設マットの汚損を防ぐため、練習球全球を新品に入れ替えた

独自の待遇改善でキャディ採用を強化、機動的な内製化体制が強み

深刻化するキャディ不足に対し、同クラブでは待遇面・職場環境の抜本的な改善に注力している。

ユニフォームにはサーフ発信のゴルフアパレルブランド「Hurley（ハーレー）」のオーダーメイドウェアを採用し、シューズはニューバランス製を支給。酷暑対策としてハーレー製オーダーメイド空調服も導入した。夏場は塩分補給グッズなどを随時支給していたが、快適性をさらに高めている。待遇面でもここ2年でベースアップや賞与改定を実施し、五十万～百万円単位の賃上げを行った。

一方で、世間的な新卒初任給の上昇もあり、キャディ職を選んでくれる若手は依然として少ないのが現状である。そのため他コースからの転職希望者を呼び込むべく、給与体系の見直しに加え、2年前からは週末限定の従業員専用託児所「くらいす園」を開設。女性が長期的に就業しやすい環境を整備している。求人媒体やリファラル（従業員紹介）採用に加え、支配人や副支配人、営業スタッフ、プロゴルファーなどが近隣住宅へのポスティングをはじめ、飲食店、整骨院、コンビニ、ゴルフ練習場などへ求人ポスターの掲示をお願いして回っている。



今年からは熱中症対策としてオーダーメイドの空調服を導入した



4日間の完全休場日を設けている。

同クラブの特長として際立つのが、コース内で何か問題や作業が発生しても、すべて自社で対応できる、外部委託に頼らない「工事・修繕の内製化力」だ。マネジメント層が若く機動力に富むことに加え、プロゴルファーである神山隆志オーナーのもと、5名の所属プロや練習環境を利用する若手プロ・研修生が多数在籍。コース内作業や緊急対応には彼らも手伝いに来てくれる、協働できる盤石な体制が整っている。

椎名常務取締役支配人には、今後の展望について、次のようにまとめていただいた。

「私たちが最優先すべきは、メンバーの皆様に飽きられない、常にクオリティの高いコースを提供し続けることです。業界の二極化が進む中、生き残る道はハイエンドを目指すしかないと考えています。現時点での答えは、やはり昔から変わらず、選ばれ続ける本質は『コースクオリティの高さ』に尽きると考えています」



メンバーの皆様に飽きられない、常にクオリティの高いコースを提供

フロントやコース管理部門は毎年一定の採用があり定着率も高いが、キャディのみ採用難が続いているため、どうすれば応募につながるかを模索しながら最優先課題として取り組んでいる。

ミーティングについては、所属長を集めた会議を月に1回開催し、そこで現場の意見を吸い上げるようにしており、オーナーの都合がつけばオーナーも参加する。オーナー企業ならではの意思決定の速さを活かした風通しの良い環境を構築。有休消化を確実に促す施策として、冬期（1月下旬～2月上旬）と夏期（7月下旬～8月上旬）に各





働くスタッフを支える週末の従業員専用託児所【くらいす園】